

## 第 42 回日本フィッション・トラック研究会実施報告

末岡 茂

第 42 回日本フィッション・トラック研究会は、2018 年 2 月 10 日（土）～12 日（月）の 3 日間にわたり、東京都立川市の国立極地研究所で開催されました。ここ数年、もはや恒例となっていますが、今回も ESR 応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会との合同研究会でした。参加者は 60 名に達し、ここ数年では最大の人数となりました。研究発表件数は 33 件（うちポスター 3 件、特別講演 2 件）で、例年に劣らぬ活発な発表と質疑が行われました。

今大会の特色のひとつは、岡山理科大の豊田 新先生の肝煎りで、「線量計測セッション」が開催されたことでした。近年は年代測定にスポットが当たりがちですが、元来 ESR 応用計測では年代測定と線量計測が 2 本柱であったことや、両者には共通する課題が少なくないことなどが、本セッションの開催に至った理由のようです。翻って見ると、FT 法も中堅以下の世代には当然のように年代測定法として認識されていますが、FT 年代測定法の黎明期である 1960 年代後半～1970 年代の文献を見ますと、国内でも線量計測を含めた様々な応用研究が模索されていたことがわかります（例えば、坂上正信（1973）「粒子トラックとその応用」、南江堂）。

また今大会では、今年度で退職を迎えられる岡山理科大の蜷川清隆先生と、北海道教育大の雁沢好博先生には、特別講演と称して、これまでの研究人生についてご講演をいただきました。各人 50 分という長めの持ち時間でしたが、ユーモアをたっぷり交えた語り口に引き込まれ、終わってみればあつという間の 50 分×2 でした。お二人とも紆余曲折な研究人生でしたが、様々な工夫や出会いを通じて新たな成果を創出していく様は、特に若い方々には勉強になったのではないかと思います。

研究会の準備と開催にあたっては、奈良女子大の高田将志先生、日本電子の島田愛子さん、極地研の三浦英樹さん、奥野淳一さん、外田智千さんには、大変お世話になりました。開催地である極地研は、研究所周辺は閑静な環境ながら、立川駅周辺の繁華街まではモノレールで数分という恵まれた立地でした。日中の研究会はもちろん、宿泊施設や夜の懇親会を含めて、満足度の高い研究会だったのではないかと思います。また、1 日目には、巡検として、南極・北極科学館の見学も開催され、同館所有の貴重な資料の数々を楽しむことができました。次年度の合同研究会は、広島での 12 月開催（ただし AGU 期間は避ける）を目標に、他の研究会の会長と調整中です。

出席者（所属）：

浅田瑞枝（自然科学研究機構）、天野英樹（岡山大）、五十嵐雄大（金沢大）、郁芳隨徹（龍谷大平安高）、伊豆本幸恵（量研機構）、伊藤一充（産総研）、伊藤久敏（電中研）、井上一

彦（鶴見大），Udaanjargal Uyangaa（金沢大），大橋聖和（山口大），岡 壽崇（東北大），小形 学（金沢大），小川原 亮（量研機構），奥野淳一（極地研），小畑直也（蒜山地質），上口 椋（金沢大），河原弘樹（金沢大），雁沢好博（北教大），菊池龍太（北教大），三寶 真琴（金沢大），宍倉 愛（京都大），下岡順直（立正大），島崎達也（熊本大），島田愛子（日本電子），白井（水上）香奈江（丹沢 T 探究会），新正裕尚（東経大），末岡 茂（原子力機構），高田将志（奈良女大），田上高広（京都大），田中桐葉（東北大），谷 篤史（神戸大），田村明弘（金沢大），檀原 徹（京都 FT），寺井 周（北海道電力），徳安佳代子（地域地盤），豊田 新（岡山理大），中井康博（香川大），中村敏和（分子科学研），西戸裕嗣（岡山理大），西野紗也子（金沢大），西村周作（原子力機構），仁田祐輔（岡山理大），蜷川清隆（岡山理大），長谷部徳子（金沢大），早坂 怜（金沢大），廣田誠子（広島大），福田将真（京都大），外田智千（極地研），三浦知督（金沢大），三浦英樹（極地研），水田幸男（日本電子），箕輪健太郎（北海道電力），三宅 実（香川大），宮脇昌弘（原子力規制庁），村橋美香（岡山理大），村松敏雄（新潟大），山口一郎（保健医療科学院），山崎誠子（産総研），山中千博（大阪大），吉井 裕（量研機構）

（計 60 名，敬称略，五十音順）



## 第 42 回フィッション・トラック研究会総会報告

2018 年 2 月 14 日

文責：末岡 茂

1. 普通会員 13 名の出席と委任状 14 名分が得られたことから、普通会員 1/5 以上の出席および委任状をもって、総会は成立した。
2. 今年度の活動状況について報告した。
3. 2016 年度の会計報告、会計監査報告を行い、承認された。
4. 来年度の執行部体制は現執行部から、庶務を安間 了氏から山田隆二氏に変更して臨むことが提案され、承認された。
5. 2018 年度の活動計画を提示し、承認された。
6. Thermo2018（ドイツ）に関する諸連絡が行われた。

-----

以下の計 16 名の方々からは総会に関わる委任状をいただきました。ご協力いただき、ありがとうございました。猪又 竜，岩野英樹，木村純一，宍倉 愛，竹内圭史，檀原 徹，檀原有吾，中里裕臣，西村 進，林 広樹，星 博幸，松浦秀治，三浦知督，森本祐一郎，山田隆二，湯口貴史（五十音順，敬称略）

※ 宍倉 愛さんと檀原 徹さんは、総会に出席されましたので、上記 1.では委任状提出者ではなく、総会出席者として集計しています。

## 日本フィッション・トラック研究会の皆様

フィッション・トラック ニュースレター第31号（2018年）の原稿を募集いたします。  
例年のとおり、東京、国立極地研究所での第42回フィッション・トラック研究会（ESR応用計測研究会・ルミネッセンス年代測定研究会 合同研究会）で講演された方は講演要旨（Proceedings, Extended abstracts）としての原稿をお願いいたします。投稿期限を「7月中旬」とし、編集作業をはじめたいと思います。もちろん早ければ早いほどありがたく存じます。  
研究会に参加されていない方も査読付きの「論説／総説」や「研究ノート」としての投稿をお待ちしております。

本誌はウェブサイト (<http://ftrgj.org/index.html>) でのPDFによる発刊・配布とし、基本的に冊子としての刊行はありません。

原稿の準備につきましては下記のとおりとなっております。

原稿の投稿の際は、テキスト（本文、文献、図の説明）と図表（カラー可）は、それぞれ別のファイルとしてお送りいただけるようお願いいたします（基本的にはレイアウトの必要はありません）。

以下に投稿規定および投稿要領を掲載します。

---

### フィッション・トラック ニュースレター 投稿規定（1997年8月1日改正, 2013年4月1日一部改正）

#### 総則

- (1) 本会会員または本会会員に紹介された非会員はニュースレターに投稿することができる。
- (2) 原稿は編集委員会に提出するものとし、編集委員会は受け取った原稿の受付年月日を記録し、原稿を保管する。
- (3) 編集委員会は必要に応じて、会員または非会員に原稿の査読を依頼し、また著者に修正を求めることができる。
- (4) ニュースレターに掲載の著作物の著作権は本会に帰属する。

#### 細則

- (1) 掲載内容はフィッション・トラックに関連する幅広い分野を対象とする。
- (2) 掲載内容の種類を以下の通りとする。
  - (a) 論説: オリジナルな研究論文で内容の主要な部分が学術論文として、他に印刷発表されていないもの。
  - (b) 総説: ある分野に関して既存論文や学説などを総括・解説したもの。
  - (c) 研究ノート: 技術、手法、術語などについての報告または紹介。
  - (d) 日本フィッション・トラック研究会が開催・主催・共催した講演会などにおける講演内容をまとめたもの（Proceedings, Extended abstractsなど）。
  - (e) その他必要と思われるもの。
- (3) 論説・総説・研究ノートに関しては、複数の専門家による査読を行う。
- (4) 原稿の書き方・提出方法・刷り上がりページ数の制限などについては、別途定める。

## FTニューレター投稿要領(2018年)

1. 発行は、2018年10月頃を予定しています。
  2. 原稿の締切りは、2018年7月中旬とします。  
ただし、投稿される予定の方は早めに、掲載内容の種類(論説/総説/研究ノート/講演要旨/その他)、タイトル、著者、刷り上り予定ページなどを編集委員(田村: aking826@staff.kanazawa-u.ac.jp)までお知らせください。またその都合によっては、メ切を延期することもあり得ますのでご相談ください。  
論説/総説/研究ノートにつきましては、査読を行います。
  3. 投稿原稿(論説/総説/研究ノート/講演要旨/その他)のスタイルの詳細につきましては、次の通りとします。
    - ・文体、句読点、引用文献形式等の詳細は、添付書類および過去のFTNLをご参考ください。
- \* 基本的には段組等レイアウトの必要はありません**

過去のFTNLの論文や講演要旨は以下からご覧いただけます。  
<http://ftrgj.org/index.html>

タイトル・著者・所属は日本語および英語でお願いします。

- ・投稿原稿は、
    - テキスト(タイトル・著者・所属・本文・図のキャプションなど): Word/Pages等のワープロソフト
    - \*\*\* 「図表はWord/Pagesファイル中に挿入しないでください」
- 図表は、以下の通りとしますが必要ならばご相談ください。\*\*\*
- 図: PDF形式またはTIFF形式
  - 表: PDF形式を推奨(TIFF形式やEXCELでも可)
    - \* テキストファイルとは必ず別にする
    - \* **カラーが可能です。**

### \* サイズの目安, 幅の上限

- 1段の場合、6.7cm、2.6inch、800pixel
  - 2段の場合、15cm、5.9inch、1750pixel
- 以上の条件ではっきりと読むことができること

○研究会の講演要旨(Proceedings, Extended abstractsなど)につきましては以下のようにします。

- \* 刷り上りページ数は4ページ(A4サイズ)を目処とします。  
それ以上の分量になりそうな場合は、できるだけ論説、総説あるいは研究ノートなどとしてご投稿ください。
- \* 提出していただいた原稿は、編集委員会で簡単な査読を行います。内容や図表の改訂を求める場合もありますので、予めご了承ください。
- \* 基本的には段組等レイアウトの必要はありませんが、希望するレイアウトがある場合はお送りいただけると幸いです(こちらでの最終的な編集原稿の校正の際にもレイアウト等の変更が可能です)。

原稿作成・編集作業等に関しまして、質問等ありましたら遠慮なくどうぞ。

2018年3月

FTNL編集委員

金沢大学 田村明弘 (email: aking826@staff.kanazawa-u.ac.jp)